

令和4年度 第1回 みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議 概要

日 時:令和4年7月11日(月)13:00~16:40

場 所:長野県大町合同庁舎 講堂

〔出席委員(敬称略 五十音順)〕 7名出席

荒山 あゆみ、鈴木 幸佳、橋本 拓、福島 百子、宮澤 洋介、山田 久志、割田 俊明

1 開会

2 あいさつ:北アルプス地域振興局長 早川 恵利

皆様こんにちは。北アルプス地域振興局長の早川恵利と申します。この4月より務めさせていただいております。本日は、今年度第1回目の「みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議」を開催しましたところ、御多忙の中、御出席いただきありがとうございます。また、ご参集の委員の皆様には、常日頃からそれぞれのお立場で北アルプス地域の振興にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

ご案内のとおり、新型コロナウイルス感染症がなかなか終息しない状況でございますので、感染拡大防止策に万全を期しながら、会議もできるだけ短時間で終了できるように努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

さて、この地域会議ですが、北アルプス地域における長野県森林づくり県民税を財源とした施策や森林づくり指針に関する事項について、皆様から幅広く御意見をいただき、私どもの施策や事業に反映させていただくことを目的に設置されているものでございます。平成20年度から導入した森林税でございますが、1期5年間の課税期間ということで、今年度は第3期目の終了年度にあたります。来年度以降の森林税につきましては、既に新聞報道等で目にされているかと思いますが、県議会の6月定例会の知事提案説明におきまして、「脱炭素化の必要性に鑑みて、森林整備の重要性・緊急性がこれまでになく高まっていることなどから、来年度以降の継続も視野に入れ、さらに検討を深めることが必要」と表明されたところでございます。今後、令和6年度から課税が始まる森林環境税との関係など様々な観点があるため、みんなで支える森林づくり県民会議での議論や市町村・県民の皆様との意見交換などを通じまして、検討を進めてまいります。

本日の地域会議でございますが、令和3年度の実施状況につきまして、白馬村で実施した事業箇所の現地調査を交え、ご報告させていただき、加えまして、第3期森林税の最終年度となる今年度の事業計画についてご説明させていただきます。また、県の森林づくりに関する基本的な展開方向を定めている「森林づくり指針」につきましても、現在改定を進めておりますので、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

本日は、限られた時間の中ではございますが、委員の皆様から、今後の北アルプス地域の森林づくりに向けた、幅広のご意見やご提言を頂戴できれば幸いです。よろしくお願いいたします。

3 現地調査

令和3年度森林づくり県民税活用事業 事業箇所

- ・木づかい空間整備事業（白馬村スノーボードショップ「round About」）



- ・みんなで支える里山整備事業（白馬村飯田地区 企業組合山仕事創造舎）



4 会議事項

(1)北アルプス管内における森林税活用事業の取組状況

- ・ 令和3年度森林づくり県民税活用事業の実績 … 資料1
- ・ 令和4年度森林づくり県民税活用事業の実施 … 資料2

【荒山委員】

北アルプス管内で予算の未消化分があると次年度の予算が縮小されるのでしょうか。また、第3期目の森林税の北アルプス管内の執行状況に対する評価はどのようにされているのでしょうか。また、事業によって、すごく予算が使われているものと、全く実績なしの事業があると思いますが、令和5年度も森林税事業が続く中で、繰越予算は、どのメニューにも付けることができるのか教えてください。また、要望の多い事業に予算を流用することはできるのでしょうか。

【林務課 西澤企画幹】

管内で未消化予算があった場合でも、次年度予算が削られることはございません。森林税事業は県民の皆さんからの要望により予算付けを行っておりますので、要望が集中した場合は調整いたしますが、予算の未消化を理由に減額することはありません。

令和5年度の予算額については、令和4年度の7億円程度から法人分の1億3000万円程度と

少なくなりますので、各事業の予算額の割り当ては少なくなります。すべての事業は実施可能です。また、各事業の要望状況により、要望の少ない事業から多い事業に予算を流用し、県民の皆さんのニーズに対応した柔軟な事業の執行を行っています。

【林務課 池上課長補佐兼普及林産係長】

当管内の予算未消化については、要望に基づき予算を執行していますので、ほぼない状況です。

第3期森林税の実施状況につきましては、資料2-2で各年度の実施状況をお示ししておりますが、森林整備については非常に要望が多く、先ほど現地をご案内しました白馬村飯田地区など里山整備利用地域を令和元年、2年に設定していただきまして、県民協働などの事業を積極的に活用していただいております。一方、前回の地域会議でもご指摘いただきました森林の利活用事業につきましては、広報の方法など改善していかなければならない点があると認識しております。

【鈴木委員】

資料4の34ページの全体の進捗状況を見ると目標値に達していない状況ですが、32ページの森林税残高は少なくなっていますが、その差はどのような理由からでしょうか。

【林務課 西澤企画幹】

第3期当初は切捨間伐を中心に進めていましたが、要望が多い搬出間伐にシフトしたことにより、面積当たりの事業費が高くなり、事業費の割に実績が上がらない状況となっております。

【森林政策課 柳原課長】

説明のとおり、間伐の内容を変更した結果、事業費は伸びて実施面積は伸びない状況となっておりますが、最初の第1期、2期では、森林整備を重点的に取り組んできて、毎年7億円ぐらいの森林税に対して、あまり執行額が伸びない状況でかなり残高がありましたので、県民の皆さんのご意見をお聞きしたら、もっと身近な取り組みを増やしてほしいという意見がありましたので、これらの事業は第3期で新しく追加されたものが多く、それまでは森林整備の間伐が中心でしたが、ライフライン等の保全対策や学校林等の利活用促進などの事業が増えています。

ひとつひとつの事業を見ると目標に到達できていないものがありますが、特に普及啓発事業は、コロナの影響で活動できないなどいろいろな理由がありましたが、そのような新しい事業が入ってきたため要望が増えて、森林税の消化が進んだというのが実情です。

【鈴木委員】

面積や箇所数だけをみると達成していないようにみえても、森林税が有効に使われているということがわかりました。32ページの棒グラフと折れ線グラフの違いが理解できました。

【橋本委員】

資料2-1で、昨年度「みんなで支える里山整備事業」を白馬村飯田地区でかなりの事業量を実施しましたが、森林税事業の9割補助というのがかなり大きく、通常は7割補助で、あとの3割は木材の売り上げ等で賄うこととなりますので、今までできなかった箇所がかなりありました。実施できた箇所でも、難しい場所は申し訳ないけど区域から外して、できる範囲で行ってききましたが、税事業の9割補助ですと、事業体が儲かるというよりは、地域の要望に応えやすいということで非常に使いやすい事業となっております。

今年の予定は、間伐等1haと少なくなっていますが、我々は昨年度と同じぐらいの事業量を要

望しましたが、予算が付かなかったということでもよろしいのでしょうか。これは、事業体としてよりも、地域の要望が急にできなくなることが申し訳なく、事業体としては昨年度並みにやりたかったと思っています。

【林務課 池上補佐兼普及林産係長】

要望につきましては、昨年度と同程度の事業量をいただきましたが、資料4の32ページにありますように森林税残高が減っていますので、令和4年度は要望に対して予算が足りない状況のため、要望いただいた他の事業体にも通常の7割補助事業に移行していただいている状況です。

【荒山委員】

今のお話を聞いて、山仕事創造舎さんの様に所有者さんに代わって地域の山を管理できる組織は必要ですし、そこで大事なのは、所有者さんとの信頼関係だと思います。去年これだけ実施したけど、今年は急にこれしかできないとなると、所有者さんとの信頼関係に影響してくると思いますので、改善できればいいと思います。

【森林政策課 柳原課長】

森林税は5年間の超過課税で約35億入ってくるということで、どのように使うかを最初からお見せして進めてきましたが、結果的には、第3期はスタート時にいろいろな事業が追加されたため、事業要望に偏りが出て、予定どおりの活用が進まないため、繰越額が増えて、3年目、4年目は約10億円の執行額となってしまいました。本来なら今年ぐらいの執行額が標準ですが、予算の平準化ができなかったことをすごく反省しております。森林整備自体がすぐにできることではなくて、実施に至るまでに時間がかかることを考慮して事業を組み立てることが必要だった点は反省材料として考えています。今、第4期森林税については、基本的に継続した場合を前提に検討しておりますので、その点についてはしっかりと考えて皆さんにプランを示していきたいと考えています。

【割田委員】

事業要望の取り方はどのように行ってきたのでしょうか。他の部局からの情報の吸い上げ方など、他の部局の対応がよくみえてこないのが、森林税を積極的に活用する体制になっているのか、分かりません。年度途中で予算の消化状況を見ながら、予算の組み換えなどはどのように行ってきたのか、それは連絡調整を取りながら進めているのか、教えていただきたい。

【森林政策課 柳原課長】

第3期になり非常に事業が増えて、教育委員会や建設部などいろいろな部局の事業が加わってきたわけですが、このようになったのは、林務部に特化して使うのではなく、県民の身近な部分にも使ってほしいという要望により広げてまいりました。時限的な徴収と執行の関係なので、使い方を事前に明示して実施してまいりましたが、例えば、建設部に付けた予算を年度途中で他部局へ回すことは難しいですが、林務部中では予算を融通することはできますので、予算の組み換えを行ってきました。従いまして、年度の予算執行はある程度部局にお任せして、計画的な事業の執行については連携を取って行っております。また、林務部だけでなく、副知事をトップとした庁内の横断的な組織をつくり連携して行っているのが実情です。

【荒山委員】

確認ですが、令和5年度以降は、法人税分の1億3千万円以外はないということですか。

【森林政策課 柳原課長】

基本的には、森林税継続を前提に、どんなことができるか考えますということを知事が表明していますので、それに向けての課題を整理しているところです。今、皆さんに500円森林税としてご負担いただいておりますが、令和6年度からは森林環境税の徴収が始まります。今は東日本復興の財源として、皆さんに1,000円をご負担いただいているものが5年度で終了して、6年度からは森林環境税として徴収されます。市町村への配分は森林環境譲与税という形で始まっていて、長野県には18.7億円程度が配分される予定です。これは全国民の負担で、森林面積が多いところには多く配分されますので、都会の皆さんが負担している分が森林県である長野県に少し多めに配分されます。これは新しく始まる制度に使う財源ですが、市町村の課題に応じて使うことができます。仮に森林税4期目を継続すれば、県民の皆さんには500円と1,000円の森林に関する税負担をお願いすることになるので、それぞれの税の役割をしっかりと説明して皆さんに納得しご賛同いただきながら進めていくよう整理しているところです。継続に向けては、その部分の整理をしっかりと行っていかなければならないと考えています。

【荒山委員】

森林税がなくなるわけではないということを知りて少し安心しました。環境税と森林税のすみ分けは、重要だと思います。納得感を得るところでは、今日現地調査に行ったみたいに、実際に何に使われているのか、目に見えることが大事だと思います。森林が多い地域、特にこの北アルプス地域は、観光など他の地域からの関係人口が多い地域だと思うので、そのような人達が、例えば、ふるさと納税の森林版として特化した形で、自主的に払いたくなる仕組みを、実際に使われているものをツアーなどで見せることで、作れるかもしれないと思います。

(2)次期森林づくり指針について

… 資料3

【鈴木委員】

北アルプスの5か年計画でも森林に関する記載がありますが、森林づくり指針との関連はどのようなになっているのですか。

【林務課 西澤企画幹】

5か年計画では、この地域の特徴であります広葉樹の利用を進めていくための取組を掲げており、今後も継続して進めていきたいと考えておりますが、指針となりますと、長野県全体の方向性を示すものとなりますので、直接的には関連してこないように見えますが、めざす方向性などは同じものと考えています。

【林務課 伊藤課長】

5か年計画は、これから5年間ですが、指針はこの先100年を見据えたものとなり、性格性が異なる部分がございます。皆様からは、これからの森林がこうあったらいいなというような率直なご意見をいただければと思います。

【橋本委員】

森林は伐期を迎えており主伐・再造林が必要という説明がありましたが、今まで間伐を実施する時は、一般の方に「木を伐ることは自然破壊ではなく、木を太らせるために木を伐る」と説明してきているため、これから主伐と言われても、非常にやりにくいと思っています。そのため、地域の人には主伐の必要性を周知することが重要と考えていますが、自分たちもそのように育っ

てきたので、主伐の時期、必要性はわかっているけど感情が追いつきません。林業経験者の自分でもそう思いますので、地域の人たちは主伐後の景色を見ると心配になると思いますので、よく説明することが重要です。

もう一つは、北アルプスに関してですが、指針を作るときなどでは、多面的利用というのが一番下に出てきて、広葉樹でも活用方法が中心で広葉樹自体のことは後回しになってしまいます。特に、白馬村や大町市もそうですが、田んぼから見える森林は、今のまま残すのがいいと思いますので、地域の人が山に入り森林を活用していくことが、北アルプスでは特に重要だと考えています。先ほど現地調査で行った白馬村飯田地区は、間伐後の作業道はトレイルランなどに使って人が山に入れる気持ちのいい山づくりをしようという気持ちで行っています。ですので、特に田んぼから見える山については、皆伐は合わないと思います。少し奥まった市有林や県有林、国有林などは、もちろん木材生産の場として計画していると思いますが、そのようなエリアの分け方がこの地域では特に重要だと思います。例えば、我々が造成してきた飯田地区の山を、仮に当社が潰れて他の会社が整備しようとした場合、前にどのような計画で実施してきたのかわからないため、県の指針を参考に実施しようとするすると皆伐されてしまうかもしれません。そのため、エリアの分け方が、特に重要となってくると思われます。

【森林政策課 柳原課長】

主伐については、資料3のグラフもありますが、10年経っても年齢構成に変化がなく高齢級に偏っていることに非常に危機感を持っています。今取り組んでいる指針では、カーボンニュートラルなどに国を挙げて取り組んでいますので、森林吸収源対策についても丁寧に皆さんにお伝えする必要もあります。また、伐採して山が裸になるとすごく不安になり苦情などをいただきますが、主伐して再造林することの大切さ、意味合いなどを、伐った跡に再び木を植えることなどによって、山が更新されて森林のCO₂吸収量が高まることなどをきちんお伝えることの必要性を実感しています。

森林の多面的機能については、県下全体の指針だとこのような内容になりますが、この地域は非常に広葉樹が多いので、広葉樹が多い地域の方向性を他でも展開していくことも非常に重要なことだと思います。針葉樹と広葉樹の比率を変えることが県の目標ですから、広葉樹がたくさんあるところで機能が発揮されているのかを伝える術みたいなものが必要と考えています。

作業道をトレイルランに使うというお話がありましたが、我々もその議論をしています。里山を整備しただけではなくて、里山を親しめる場とすることが非常に大切だと感じています。

また、ゾーニングというのが、これから非常に重要な要素で、どのような森林は保全し、どのような森林は利用していくかを議論していかなければいけないと考えています。いずれも非常に参考になるお話を聞かせていただきました。

【荒山委員】

橋本さんの意見にすごく同感です。資料に労働生産性とありますが、労働生産性は効率だけでなく高付加価値化というものがあると思います。例えば、景観を楽しむことや森に親しむことなども、素材生産には寄らない部分での高付加価値化だと思います。現状の指針の中では、労働生産性が効率化だけの視点となっていますので、高付加価値化という視点も入れてほしいと思います。また、素材生産量の目標80万m³の達成が厳しいと説明がありましたが、それも材積だけではなく、どのくらい高付加価値をつけられたかという視点も大事だと思います。

また、3ページの記載で気になったのは、「めざす森林の姿」のポイントの中で、「針葉樹と広葉樹が適度に混交した森林」をめざす根拠が、これを読んだ限りだとちょっとふんわりしているなという印象を受けました。単に、そこをめざすのではなくて、結局、森林は人とのようなバランスを保っていくかに尽きると思いますので、ふんわりと針広混交林がいい山だからではなくて、広葉樹はあるけど出口はあるのかなどの視点を含めて検討していただきたいと思います。

先日、牛越大町市長と若者意見交換会でお話させていただく機会がありました。この地域は広葉樹資源が豊富ですが、広葉樹を利用するための乾燥施設がなく、地域内で高付加価値化できていない状況ですとお話しさせていただきました。この地域に欠けている製材、乾燥というものをどのように実装していけばいいかということと一緒に考えてくださいと話した時に、牛越市長からも製材が要だというお話をいただき、県レベル、地域レベルで指針のようなものを作っても、市町村レベルに下りないことにはアクションにつながらないと思いますので、そのような連携を是非取ってほしいと思います。

【宮沢委員】

私は観光の立場で参加しておりますが、森林と観光では、人は森に入っても受身です。私は池田町ですが、特にコロナ禍でも、町でヤマザクラトレッキングなどを募集すると、すぐにいっぱいになります。人が山の中に入ることを非常に求めているような感じを受けます。特に池田町には観光資源がないですから、人が山に入る、地元の人がキノコを採りに入る、作業道の利用もいいですが、そのような機会がつかれたらいいと思います。木はどんどん大きくなりますので、非常に展望がよかった場所が、次第に木が伸びて眺めが悪くなり、人が行かなくなる。眺めがいいことだけで人を引き付けることができるので、特に北アルプスの眺めがいいので、そのような場所は維持することが必要と感じています。

【割田委員】

指針の中で、林業従事者数が減少しているデータがありました。この原因は、これから主伐・再造林を進めるためには、植林をする人材を増やす必要がありますが、それに対する助成が十分でないことにあると思います。CO₂を吸収する森林ですが、高齢な森林は逆に吸収量が少なくなり、木が成長していく過程でCO₂の吸収量が高まりますので、伐期を迎えている森林を伐採して再造林することが必要です。今後、脱炭素化、カーボンニュートラルの面から森林の果たす役割は大きいと思いますが、結局、担い手がないため主伐が進まない状況です。林業の労働環境は、まだまだ3kと呼ばれているように危険で低賃金な状況にありますので、儲かる林業にしていかなければいけないと思います。指針などではきれいな言葉で方向性を出していますが、現実問題働き手がない状況を変えていかなければ根本的な改善にならないと思います。

最近では、ウッドショックなどで外材が入ってこない状況ですから、これからは国産材を国内でしっかり使っていかなければいけません。そのためにも、公共施設で木材を使うことが必要です。昨年10月からは法改正により、民間建築物でも木材利用の促進が定められています。これはCO₂の固定にも貢献するわけですが、なかなか木材利用が進んでいないのが現状です。特に公共施設、平成22年度に公共建築物等木材利用促進法ができてからも、この地域ではあまり公共施設への木材利用が進んでいません。法改正により民間建築物まで範囲が拡大されたため、やはり地

元の材は地元で使っていくことを進めなければいけないと思います。先ほど荒山委員から出された製材の問題ですが、材を出しても売り先、出口ができていないと進みません。森林組合でも作業員を訓練して製材所を動かす準備をしていますが、地元の材は、できるだけ地元で製材できるように組合の製材所を使っただけだと考えています。そのような意味では、組合の製材所ではなく、地域全体の製材所として役割を果たしていければと考えています。また、広葉樹もいろいろな形の使い方がありますので、今年は元気づくり支援金を使って東京に売り込んでいくことも考えていますが、木材の利用促進の面から、地元で生産して地元で消費するしくみを是非作ってもらいたと思います。

次に、森林環境税ですが、お話のあったとおり、今までは国民の負担がなかったわけですが、これからは、仮に森林税が継続されると、年間 1,500 円を負担することになり、まさに国民参加の税になります。その中で、環境というテーマが重要で、木を売って儲けるだけでなく、観光、環境、健康、教育など多面的な機能をもつ山を活用して山主にお金が戻るしくみをつくらなければいけないと思います。森林環境税は森林整備、特に人工林を中心に考えていますが、この地域は広葉樹が多いので、森林税を使って広葉樹を活用できるようにすることが必要ではないでしょうか。主伐・再造林を進めるためには、この地域のように急峻な場所では道を開けることも難しいですし、補助事業を使っても地元の負担が増えてしまうので、木を伐ってもどのように出すかが課題です。急峻な場所は、索道などが必要となるため、逆に昔の技術が活かされるようになるのではないのでしょうか。架線の技術者が減ってきているので研修会等の支援をしてもらいたいと思っています。

また、組合でも木質バイオマスボイラー用のチップ生産をしていますが、広葉樹を上手く使っていくために、山を持っている皆さんにも参加してもらい市民参加で脱炭素を進めようと考えています。みんなで脱炭素に取り組む必要性を北アルプスから発信できればいいと思います。そのような意味では、今も公共施設や民間施設では化石燃料を使って暖房をしていますが、木質バイオマスなど再生可能エネルギーを使う場合は、ボイラー施設を替えるなどの初期費用がどうしてもかかるため、その部分にもう少し大きな金額の支援がないと変わっていかないと思います。今、大町市はボイラー施設にも薪ストーブと同じように助成していますが、県はペレットストーブだけの助成となっているため、ボイラー施設の切り替え時も助成してほしいと考えています。

みんなで支える里山整備事業では小さな面積でも整備ができることなどから、森林税や森林環境税を活用し、県民参加で里山を整備していこうという機運が高まっていますので、このような整備を継続的に行うことが、人が山に入って手を入れることにつながるため、是非、森林税の継続をお願いしたいと思います。

いずれにしても、保育作業など林業従事者が少ないことが課題ですので、儲かる林業が実現できるよう、少しでもやる気が起きるような政策を考えてもらいたいと思います。

【荒山委員】

森林組合や林業事業体などの組織を超えて地域でどう生き残っていくか、エリアの中でプラットフォーム的な考え方が必要だと感じました。製材に関しては出口がまだないというお話でしたが、近いところでは、伊那地域で地域材を使った出口づくりをしているところがありますので、その人たちを呼んで、出口から設計することなどもやっていきたいと思っています。製材のことを、是非一緒に考えていきたいと思いました。よろしくお願いします。